

# 「AQURIA $\alpha$ -リポ酸P」及び「AQURIA $\alpha$ -リポ酸SP」の マウス単回経口投与毒性試験

 株式会社 シールドラボ

〒171 - 00432

東京都豊島区要町 1 - 9 - 3 シールドラボビル

TEL 03 - 5917 - 5211 FAX 03 - 5917 - 5212

URL : <http://www.shield-lab.co.jp>

E-mail : [info@shield-lab.co.jp](mailto:info@shield-lab.co.jp)

## 「AQURIA -リポ酸 P」及び「AQURIA -リポ酸 SP」の マウスにおける単回経口投与毒性試験

### 1. 要約

-リポ酸の安全性評価のひとつとして、AQURIA -リポ酸 P 及び AQURIA -リポ酸 SP (2000 mg/kg) を雌雄マウス (ddY, 5 週齢) に単回経口投与し、毒性発現の有無を検討した。

投与後 14 日間の AQURIA -リポ酸 P 及び AQURIA -リポ酸 SP 群の雄及び雌の体重は正常に推移し、死亡例はみられなかった。また、一般状態観察に異常は認められず、体重も順調に推移し、観察期間終了時剖検においても異常は認められなかった。

本試験条件下における AQURIA -リポ酸 P 及び AQURIA -リポ酸 SP の概略の致死量 (最小致死量) は、雌雄ともに 2000 mg/kg 以上と推察された。

### 2. 試験材料及び試験方法

#### 被験物質

AQURIA -リポ酸 P (20% 以上品) 及び AQURIA -リポ酸 SP (8% 以上品)

#### 使用動物

雌雄マウス (ddY, 5 週齢, 体重雄 24~28g, 雌 21~24 g) を日本エス・エル・シー(株)より購入し、予備飼育期間を 3 日間おこなった後、実験に使用した。

#### 飼育条件

動物は予備飼育期間と観察期間を通して、温度  $23 \pm 1$  , 湿度  $50 \pm 5\%$  に調節した部屋で飼育した。飼料は通常食 (CE-2; 日本クリア製), 飲水は水道水を自由摂取させた。動物はプラスチック製ケージ (260W × 380D × 180H mm) に、1 ケージにつき 5 匹の割合で収容した。

#### 投与量

2000 mg/kg ( -リポ酸として P 品は 400mg、SP 品は 160mg) とした。

#### 投与方法、投与回数及び観察期間

投与前日から 20 時間絶食したマウスに、蒸留水に懸濁したサンプルを 10 mL/kg の割合で経口投与した。投与後、14 日目まで一般状態の観察を毎日行い、3 ないし 4 日毎に体重を測定した。

### 3. 試験結果

#### 死亡例

雌雄各群の死亡状況を Table 1. に示した。

コントロール群(対照群)並びに AQURIA -リポ酸 P 及び AQURIA -リポ酸 SP 投与群のいずれの雌雄にも死亡は認められなかった。

したがって, AQURIA -リポ酸 P 及び AQURIA -リポ酸 SP のいずれも致死量は雌雄とも 2000mg/kg 以上と推察された。

**Table 1. マウスの死亡例**

群	性別	匹数	投与からの飼育日数(日)			死亡例 / 全数
			0	7	14	
-リポ酸 P 群	雄	5	0	0	0	0 / 5
	雌	5	0	0	0	0 / 5
-リポ酸 SP 群	雄	5	0	0	0	0 / 5
	雌	5	0	0	0	0 / 5
コントロール群	雄	5	0	0	0	0 / 5
	雌	5	0	0	0	0 / 5

#### 臓器観察

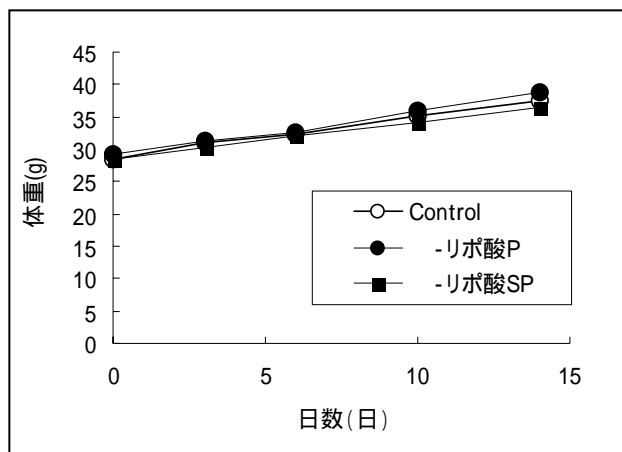
投与後(14日後)の全マウスについて臓器観察をおこなった結果、AQURIA -リポ酸 P 及び AQURIA -リポ酸 SP 投与群のいずれにも異常は認められなかった。

#### 体重

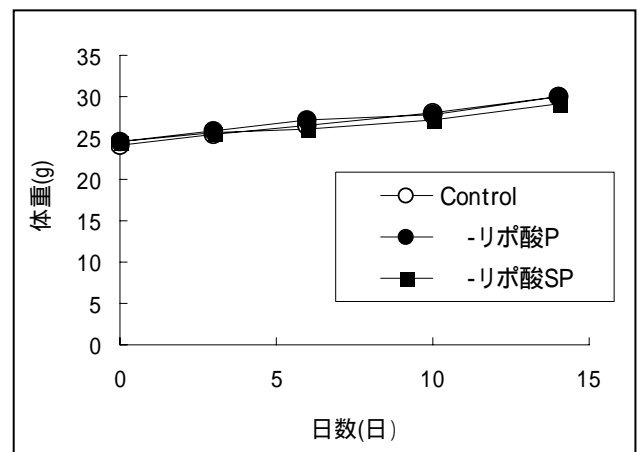
雌雄各群の体重変化をそれぞれ図 1 及び図 2 に示した。

性差に関わらず, コントロール群と AQURIA -リポ酸 P 及び AQURIA -リポ酸 SP 群とでは体重変化に差は認められなかった。

**図 1. 体重変化(雄)**



**図 2. 体重変化(雌)**



#### 4 . そのほかの情報

実施施設：オリザ油化株式会社 動物実験施設  
(愛知県一宮市北方町沼田1 〒493-8001)

試験日程：試験開始日：2006年1月10日  
動物入荷日：2006年1月10日  
投与日：2006年1月13日  
観察終了日：2006年1月27日

試験責任者：岡田 忠司(オリザ油化株式会社)

試験担当者：藍谷 教夫(オリザ油化株式会社)

試験法ガイドライン：「OECD 化学品テストガイドライン 401 急性経口毒性試験」

以 上